

(件名) 着任のご挨拶及び総合食品見本市である「THAI FEX2023」について**1 新任ご挨拶**

2023年3月まで株式会社北洋銀行バンコク駐在員事務所の副所長を務めていた青谷主事の後任として、2023年4月に株式会社北洋銀行本店国際部へ研修派遣となり、5月にタイのバンコクに着任しました平田穂高（ひらたほだか）と申します。

大学卒業後、2020年4月に北海道庁に入庁し、今年の3月までオホーツク総合振興局網走建設管理部建設指導課で勤務した後、現在に至ります。

道外出身ではありますが、北海道の魅力に触れ現職に就いております。北海道の益々の発展に貢献できるよう、精進させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2 「THAI FEX2023」について

バンコク近郊のノンタブリー県で開催された、「THAI FEX2023」を視察しましたのでご紹介します。

1. 概要について

「THAI FEX」は、45の国と地域から3,000社程が参加した東南アジア最大級の総合食品見本市です。今年は5月23日（火）から27日（土）の5日間の日程で開催され、80,000人程の来場がありました。

JETRO（日本貿易振興機構）が設置したジャパンパビリオンには、39社（団体）が出展していたほか、ジャパンパビリオン以外にもタイに現地法人を設置している日系企業が多数出展していました。なお、道内関連企業の出展は6社（内4社は、「札幌食と観光国際実行委員会」として出展）でした。

2. 感染症対策について

会場内に感染症対策を促す案内はなく、入退場時やブースで入場規制・消毒・検温などはほぼ行われていませんでした。各ブースでの試食・販売も盛況で、手渡しによる試食提供も行われていました。

JETROバンコク事務所の開催後報告によると、来場者は昨年と比較して2倍ほどに増え、ブースの出展数もコロナ禍以前と同程度にまで戻ったとのことでした。

実際に会場内を視察した際も、マスクを着用している来場者は半数ほどで、商品の紹介や商談の声で賑わっていました。



会場内の様子（筆者撮影）

3. 視察内容について

会場内は、取扱品目により次の4つのセクションに分かれていました。展示スペースは13万㎡と発表されており、これは、今年開業した「ES CON FIELD（北広島市）」の敷地面積（5万㎡）の2.5倍以上の規模に相当します。

セクション1	フードテクノロジー、外食、コーヒー&ティー
セクション2	ドリンク、菓子類、肉
セクション3	冷凍食品、水産物、米、青果、野菜
セクション4	加工食品、各国パビリオン、輸出入業者

セクション3の青果ブースが特に賑わっていました。タイでの青果は、他の食品よりも比較的価格が安く、街中にある屋台で購入できる等、日本以上に食されている印象があります。中でもココナッツは、果汁をそのまま飲む、トムヤムクンの味付けに使う、お菓子の原料等として日常的に食べられています。今回のイベントでも、ココナッツのブースは多く、注目の高さを感じました。

次にジャパンパビリオンについてですが、日本産食品の魅力を国際的にアピールするとともに、タイ市場、さらにはアジア市場全体への新規参入・販路拡大を目指す企業等を支援する目的で、JETROが設置したものです。主な出品物は和牛、水産物・水産加工物、菓子、調味料、茶、日本酒、梅酒等で、開催期間中の45か国別の成約額は、中国、タイ、アメリカ、マレーシアに次いで5番目に多かったようです。パビリオン内の出品物が一目で確認できる案内所の設置や、セクション間の案内広告等、来場者からの目を引いていました。



ジャパンパビリオン案内所の展示品 (筆者撮影)

4. 所見

実際に、出展されている日系企業の方も、新たなバイヤーと商談ができたと話されていました。そこで、海外への販路拡大に興味がある方もいらっしゃると思います。こちらの「農林水産物・食品 輸出支援プラットフォーム」(<https://www.jetro.go.jp/agriportal/platform>) を活用されてみてはいかがでしょうか。JETROが、日本産農林水産物・食品の有望な輸出先国・地域を対象として行っている取組になります。現地(日本国外)拠点設ける事業者、またこれから現地に進出する事業者が、この支援の対象になります。このプラットフォームでは、商品の海外輸出に際しての必要手続きや、国別で好まれている商品等の質問を直接担当者に聞くことができます。

本便りという形で、タイから現地の情勢やイベントについて報告させていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。